学校番号	3030

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	『高等学校　新地理総合』（帝国書院）　『新詳高等地図』（帝国書院）						
副教材等	『最新地理図表　GEO』（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「地理＝Geography」という言葉は、「geo＝地面・地表の、graphia＝記述」が語源であり、元来は地表面で起こっている事象を記述し残しておくことが目的でした。そこから学問として発達するにつれて、その起こっている事象の原因や背景となる自然条件や社会条件、またそれぞれの事象間の空間的・時間的な相互作用や因果関係などの探究・理解に重点が置かれるようになりました。対象となる範囲も地表面にとどまらず、大気圏内から海底やさらには地球内部の構造にまで及ぶようになり、これらを総合的に考察する能力を身につけていくことが、まさに「地理総合」の目的です。そのために「差異」と「同一性」という観点を軸にしながら、自然現象や人間の営みなどにみられるさまざまな地理的事象を取り上げ、地理的な見方・考え方を養っていきます。

2　学習の到達目標

・持続可能な社会作りを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに注目して、現代の諸課題を考察することができる。
・よりよい社会の実現を視野に入れて、グローバルな視座から国際理解や国際協力のあり方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察することができる。
・地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的機能を習得する。
・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	地理に関わる諸事象に関して、地域や地球的課題への取組や自然災害と防災などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、空間的な相互作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	地図でとらえる現代世界	1　地図と地理情報システム 2　結び付きを深める現代世界	a: 地球上において時差が発生するメカニズムや、地図の発達、GIS の具体的なシステム、位置的な相違に基づく現代世界の国家・地域の成り立ちやその相互作用、日本の位置や領域について理解する。 b: グローバル化による地図の進化と、国家や地域との関係性や結びつき、日本における領域の変遷や周囲の国々との関係などを、統計資料を選び図化することなどによって、多面的・多角的に考察し、表現する。 c: 現代世界の地域的な差異・同一性、日本と他国・地域、他国・地域同士の相互作用について常に関心を持ち、GIS 技術を用いた統計地図の作成などを通じて、様々な資料を考察に活用しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート ・GIS ソフトを用いたオリジナル地図(パフォーマンス課題)	・ワークシート ・GIS ソフトを用いたオリジナル地図の作成
	国際理解と国際協力	1　生活文化の多様性と国際理解	a: 世界や日本の生活文化や社会・経済システムを、そのベースとなる自然環境のシステムや、自然環境と人間の相互作用に基づいて理解する。 b: 世界の地形や気候などの自然環境や、言語や宗教などの生活文化などに着目して、世界全体や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察し、表現する。 c: 世界全体および地域レベルでの自然・社会・経済システムなどについて、差異と同一性という視点から自分なりの考えをまとめ、様々な意見についても考察しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出プリント ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業(創造探究事業)への参加

後期	国際理解と国際協力	1 生活文化の多様性と国際理解 2 地球的課題と国際協力	a: 農工業を中心とした産業の発展を理解し、合わせて前期で習得した生活文化・国際理解に関する知識・技能を踏まえて、地球的な課題をグローバルな視点や地域的な視点から理解する。 b: 農工業を中心とした産業の発展を理解し、合わせて前期で習得した生活文化・国際理解に関する知識・技能を踏まえて、地球的な課題をグローバルな視点や地域的な視点から、時間的・空間的な相互作用に着目して、世界全体や地域の諸課題に対する動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察し、表現する。 c: 日本や世界の産業を比較し、差異と同一性という視点からその類似点や相違点にも関心を持ち、追究し、考察しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出プリント ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業(創造探究事業)への参加
	持続可能な地域作りと私たち	1 自然環境と防災 2 生活圏の調査と地域の展望	a: 既に学習した地形・気候等の自然環境に関する知識をベースに、世界や日本の自然災害や防災のシステムについて理解する。 b: 地形・気候等の自然環境に関する知識や、読図・GISによる地図の読み取り・作成などの技能を用いて、自然災害や防災について、多面的・多角的に考察し、表現する。 c: 自然災害の地域ごとの差異や同一性について意識しながら、自然災害の地域性や防災について、積極的に様々な資料を活用し、考察を深めようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出プリント ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業(創造探究事業)への参加

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度